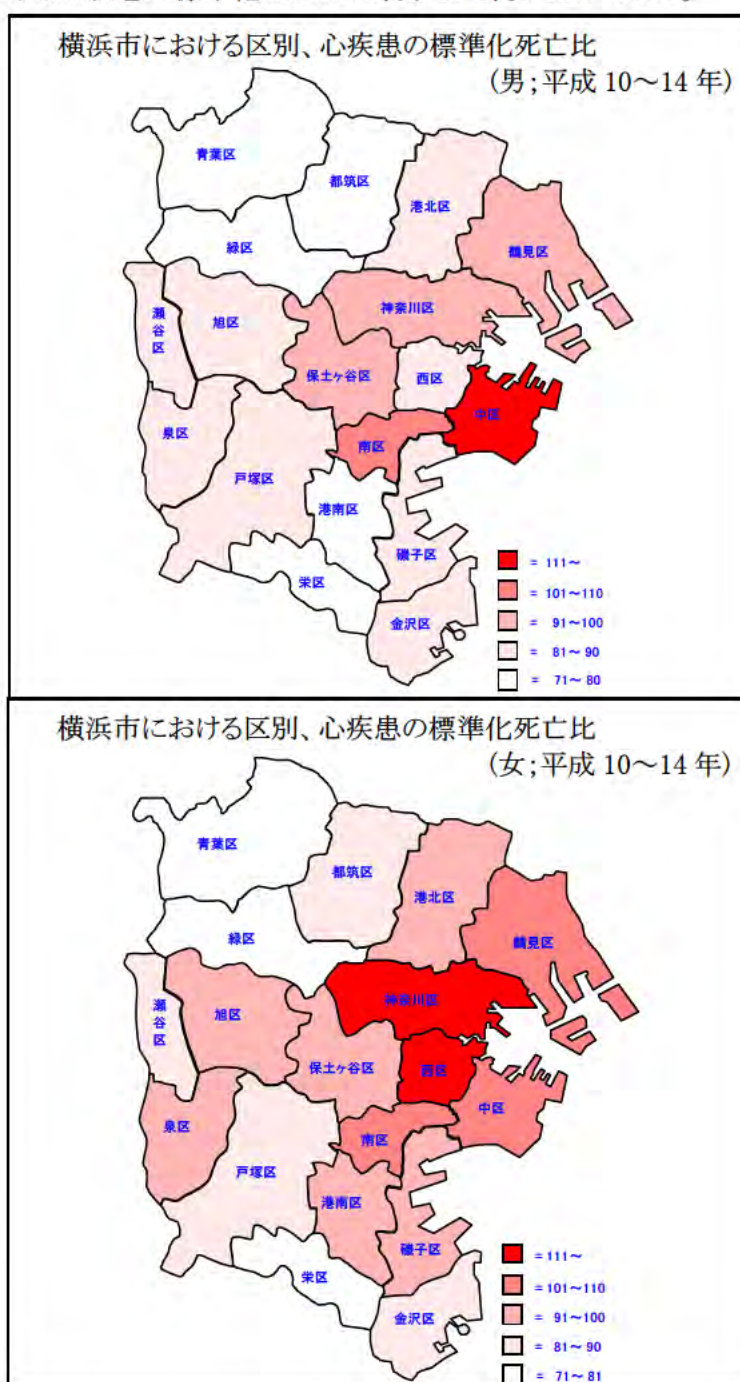


図解 保健情報(その 69)

今回は平成 10～14 年の人口動態統計をもとに心疾患(死因簡単分類コード:09200)の標準化死亡比を男女別に図示しました。標準化死亡比は、各地域の期待死亡数(各地域の年齢階級別人口×全国の年齢階級別死亡率)とその地域の実際の死亡数との比です。標準化死亡比が基準値(100)よりも大きい場合、実際の死亡数が期待死亡数より多いことを表します。標準化死亡比は、市民の健康づくりのために活用できる、客観的な健康指標の一つです。日頃、地域の課題と感じていたことが、これによって明確になるかもしれません。また、社会・経済的要因との関係を検討することで、新たな問題解決の糸口が明らかになるかもしれません。

心疾患の標準化死亡比が高い地区は、男で中区(126.1)、南区(104.9)、保土ヶ谷区(99.8)、女で西区(111.0)、神奈川区(110.9)、中区(107.5)の順でした。

なお、横浜市域における心疾患の標準化死亡比は、男 89.2、女 94.7 でした。



参考資料：平成 10～14 年人口動態保健所・市区町村別統計 人口動態統計特殊報告、厚生労働省大臣官房統計情報部編、2004

【 感染症・疫学情報課 】